

輪 島 市 立 学 校 再 編 基 本 計 画

令 和 7 年 2 月

輪島市教育委員会

目 次

1 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2 輪島市の小中学校の現状・・・・・・・・	3
3 輪島市が目指す学校の適正規模・適正配置について・・	5
4 学校再編の必要性について・・・・・・・・	6
5 再編計画・・・・・・・・・・・・・・・・	7
6 再編を計画するにあたっての留意点について・・・・・	9
7 学校再編を行うにあたって配慮すること・・・・・・・・	9
参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・	11

1 はじめに

全国的に少子化が進展する中、本市においても児童生徒数の減少と、学校の小規模化が進んでいる状況であるところ、令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、多くの児童生徒が市外に避難せざるを得なくなり、児童生徒の減少に拍車をかけることとなりました。

一般的に小規模学校は、児童生徒一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、きめ細かな指導が行いやすいという利点がある一方、学校における社会性の育成や学級編制・部活動・教職員の配置数に制約が生じるなど、教育環境と学校運営の面で様々な影響を及ぼすことが懸念されます。

また、能登半島地震や奥能登豪雨災害により、市内小中学校のすべての校舎・体育館等で被害が確認され、中には建て替えが必要となる校舎・体育館も存在します。

本市の教育理念である「人生100年時代を幸せに生き抜くための教育」を実現するためには、望ましい教育環境を長期にわたり途切れることなく整える必要があります。

望ましい教育環境とは、児童生徒が集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力、そして人間関係調整力を育み、社会性や規範意識を身につけることができる環境であり、教育の質の更なる充実を図るためには、この環境を確保すべく小中学校の再編整備を行わなければなりません。

これらの状況に鑑みて、輪島市立学校適正規模等検討委員会を設置し、目指すべき現実的かつ持続可能な学校規模を見定めた上で、今後における小中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針及び再編成案について検討を行い、令和6年11月20日に答申を受けました。

答申された基本方針及び再編成案について、保護者・地域の皆様からご意見も伺い「輪島市立学校再編基本計画」（以下、「再編計画」という。）を策定しました。

今後は、この再編計画をもとに、本市が掲げる創造的復興・持続可能なふるさと輪島を担う人材の育成を目指し、これからの社会をたくましく切り拓いていく児童生徒にとって、より良い教育環境となるよう努めてまいります。

2 輪島市の小中学校の現状

・学校規模及び配置の状況

小学校 9 校、中学校 3 校の計 12 校を設置しています。

区分	学校名	児童生徒数 (R5.12.1)		学級数 (R5.12.1)		児童生徒数 (R7.2.1)		学級数 (R7.2.1)	
		通常 学級	特別 支援	通常 学級	特別 支援	通常 学級	特別 支援	通常 学級	特別 支援
小学校	河井小学校	301	7	12	2	179	6	6	2
	鳳至小学校	155	6	6	3	130	4	6	2
	鵜巣小学校	9	1	2	1	6	1	2	1
	大屋小学校	76	4	6	2	63	3	6	1
	河原田小学校	16	2	3	2	7	1	3	1
	三井小学校	10	0	3	0	7	0	2	0
	町野小学校	42	2	4	2	18	1	3	1
	門前東小学校	37	0	4	0	28	1	3	1
	門前西小学校	29	2	3	2	25	2	3	2
	小学校計	675	24	43	14	463	19	34	11
中学校	輪島中学校	324	4	10	2	245	4	8	2
	東陽中学校	19	0	3	0	10	0	2	0
	門前中学校	53	1	3	1	42	0	3	0
	中学校計	396	5	16	3	297	4	13	2
小中学校計		1,071	29	59	17	760	23	47	13

・小学校の現状

能登半島地震前（R5.12.1）、河井小学校ではすべての学年において、2 学級が編成され、クラス替えができる状況でありました。また、鳳至小学校、大屋小学校では、各学年が単級であり、その他の小学校では複式学級が編成されており、クラス替えができない状況でありました。

能登半島地震により、多くの児童が市外へ避難することとなり、一部の学校では児童の半数以上が市外の学校に通うこととなりましたが、仮設住宅や、仮設校舎の完成により少しずつ児童が輪島に戻り、令和 7 年 2 月 1 日時点では上記の児童数と

なっています。

しかし、地震前には程遠く、学校ごとでみると、地震前、1 学年 2 学級であった河井小学校でも、すべての学年において単級となり、学校によっては欠学年も生じ、変則複式となる学校も出てくるようになりました。

能登半島地震以降、校舎が危険な状態であったり、グラウンドに仮設住宅が建設されたことにより、河井小学校、鳳至小学校、鵜巣小学校、大屋小学校、河原田小学校、三井小学校は、河井小学校グラウンドに建設した仮設校舎にて合同授業を行っています。また、門前東小学校、門前西小学校も、それぞれの校舎・体育館の杭基礎が損傷したことにより、両校児童は門前中学校で合同授業を行っています。

町野小学校については、自校で授業を行ってまいりましたが、9 月に発生した豪雨により校舎が床上浸水し、授業ができる状況にないことから、能登町立柳田小学校で、柳田小児童と合同授業を行っています。

・中学校の現状

能登半島地震前、市内 3 中学校のうちクラス替えができる中学校は、輪島中学校のみで、東陽中学校及び門前中学校はすべての学年で単級となっています。

地震後、中学生も市外に避難したが、白山市へ集団避難をしたことにより、小学生より保護者と共に市外に避難した生徒は少なかったものと考えられます。

令和 7 年 2 月 1 日現在、輪島中学校ではクラス替えできる状態ではあるものの、東陽中学校及び門前中学校は全学年単級となっており、東陽中学校では令和 7 年度から複式学級が編成される見込みとなっています。

輪島中学校は自校の校舎において授業を行っていますが、東陽中学校においては、町野小学校同様、豪雨により校舎・体育館が床上浸水したことにより、能登町立柳田中学校にて合同授業を行っており、また、門前中学校は自校で授業を行っているものの、門前東小学校・門前西小学校の児童を受け入れている状況であります。

※前記の表中の学級数は、公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律の一部を改正する法律（令和 3 年改正法）附則第 2 条に規定する一学級の児童又は生徒の数から算出した学級数であり、令和 6 年度においては特例により複式解消できる教員配置がなされました。

3 輪島市が目指す学校の適正規模・適正配置について

将来的な児童生徒数の減少、学校施設の課題、再編におけるメリット・デメリット等を考慮し総合的に判断した場合、児童生徒の学びと学校の活力を維持・発展させるためには、適正な学校規模であることが望ましく、そのために学校の再編が必要であると考えます。

また、本市は能登半島の北端に位置しており、東西約 42 km、南北約 31 km、面積は約 426 km²に及ぶ広さです。このため、児童生徒の通学にはスクールバスが必要不可欠であり、令和 7 年 2 月 1 日現在、13 路線・14 台のスクールバス等が児童生徒の通学の手段となっています。

従いまして、このような通学手段や通学時間、各地域の特性・実情等を考慮し、本市における小中学校の望ましい教育環境のあり方について、適正規模・適正配置を推進するための基本的な考え方を以下のとおり整理いたします。

- ①次代を担う児童生徒に必要とされる資質・能力を形成する学校の使命を果たすための学習環境を提供する体制を構築します。
- ②地理的条件を踏まえ、輪島市中央地区、東部地区、西部地区のそれぞれ地区ごとに、学校再編を行います。
- ③可能な限り複式学級の解消を目指すとともに、学校規模の標準に近づけます。

前記どおり配置とすることを基本に次に掲げる考え方に基づいて実施します。

- ・児童生徒の成長のため、良好な教育環境の実現を図ります。
- ・再編により遠距離通学となる児童生徒については、各学校の地理的条件などの実情を踏まえ、安全に通学できるよう対策を講じます。
- ・通学路については、交通と防犯の両面から安全性について十分な配慮を行うとともに、特に低学年の児童が安全に通学できるよう、状況に応じた通学環境の改善を図ります。
- ・再編により使用しない学校施設及び用地については、地震による被害が大きく復旧が困難な施設は解体し、安全性が確保できる施設については、災害時の避難所とするなど、有効活用を検討します。

【参考：国の基準（一部抜粋）】

・学校教育法施行規則第 41 条（中学校は同第 79 条により準用）

小学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

・義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第 4 条

適正な学校規模の条件は、学級数が、小学校及び中学校にあってはおおむね 12 学級から 18 学級までであること。

4 学校再編の必要性について

学校の活性化、教育指導の充実、教育水準の向上を図るためには、一定の学校規模を確保する事が重要となります。しかしながら本市の現状は、少子化の進行や市外への避難などにより学校の小規模化が一層進み、中学校においても複式学級を編成しなければならない状況になるなど、複式学級を編成する学校が多くなってきています。なかには、児童が学年に 1 人、もしくは欠学年がある小学校も増えてきています。

きめ細かな指導ができるなど、小規模校にもメリットはあるものの、過度の小規模校化は固定化された人間関係が続くことや集団教育活動などにおいてもその利点を生かすことが難しくなっています。このことから、より望ましい学級編成や学校規模を実現するために、学校再編の適否について考え、計画的に取り組む必要があります。

人は、少年期に集団の中で生活することにより、人間にとって最も大切な社会性、協調性、適度な競争心と向上心を自然に身に付けるといわれ、児童生徒が個性を発揮し、主体性や社会性を身に付けていくためには多様な個性や能力、価値観を持つ仲間や教職員と触れ合える学校規模が望ましいとされています。特に、現代社会のように家庭が核家族化し少家族化した現在では、小中学校時期における集団生活の体験は、人間関係調整能力を身に着ける場として、児童生徒の健全な人間形成に欠かすことのできないものです。また、変化の激しい現代社会の中でたくましく生き抜く力を養う上でも重要であると言えます。

従いまして、輪島市立学校適正規模等検討委員会では子ども第一の立場に立ち、本市の小中学校の現状を鑑み、様々な事情を考慮してもなお、小中学校の再編が必要であると考え、検討を行ったものであります。

それぞれの学校には長い歴史と伝統があり、地域社会も学校を核として活動し栄えてきた経緯があることから、地域の方々の学校に寄せる「思い」や「願い」は充分理解できるところであります。しかしながら、教育環境の整備や学校再編は、次代を担う児童生徒の成長を第一に考えるべきであり、より良い教育環境の充実を図ることが重要であるものと考えます。

5 再編計画

具体的な学校再編の枠組み

学校名	再編後の学校の位置	再編予定年度	再編方針
河井小学校	河井小学校	令和 8 年度	現在、6 小学校の児童は河井小学校のグラウンドに建設した仮設校舎において授業を行っており、河井小、鳳至小、三井小の校舎等は被害が大きく解体せざるを得ない状況です。鵜巣小、大屋小、河原田小についても改修が必要なところ、グラウンドには仮設住宅が建設されています。 6 小学校が合同で学ぶ現在の状況と今後の児童数の予測のほか、複式学級の解消による教育環境の充実を図るため 6 校を統合します。
鳳至小学校			
鵜巣小学校			
大屋小学校			
河原田小学校			
三井小学校			
町野小学校	東陽中学校	令和 8 年度	町野小学校の令和 6 年度児童数が 19 人であり完全複式の学級編成となるところであります。また、東陽中学校は令和 6 年度の生徒数が 10 人であり、1 年と 2 年で複式学級となります。 東部地区においては、地理的に児童生徒及び保護者の負担を考慮し、小中一貫の義務教育学校とすることで、地域の子育て環境を維持します。
東陽中学校			

門前東小学校	門前中学校	令和 8 年度	門前東小と門前西小は地震により校舎・体育館が使用できず、グラウンドに仮設住宅が建設されています。現在は門前中で授業を行っていますが、令和 6 年度の児童数は門前東小が 29 人、門前西小が 26 人であり、この 2 校を統合することで一部を除き複式学級が解消されます。 西部地区においても、地区内に学校施設を配置することとし、小中学生が合同で学ぶ現在の状況と児童生徒数の将来予測から小中一貫の義務教育学校とします。
門前西小学校			
門前中学校			
輪島中学校	—	—	現状を維持します。

※令和 8 年度に上記再編を行った場合の学級編成見込み

学校名	学年	1	2	3	4	5	6	特学	計
河井小	児童数	19	33	31	29	37	33	3	185
鳳至小	児童数	17	12	23	18	18	20	2	110
鵜巣小	児童数	2		1	2		1		6
大屋小	児童数	9	13	9	6	13	9	7	66
河原田小	児童数	7	1	2	1		1	1	13
三井小	児童数	2	1	3		1		1	8
6校計	児童数	56	60	69	56	69	64	14	388
	学級数	2	2	2	2	2	2	3	15
町野小	児童数	1	3	2	5	2	3	1	17
	学級数	1		1		1		1	4
門前東小	児童数	7	1	3	3	4	5	1	24
門前西小	児童数	8	2	2	3	5	6	3	29
2校計	児童数	15	3	5	6	9	11	4	53
	学級数	1	1		1		1	2	6
児童数計		72	66	76	67	80	78	19	458

学校名	学年	1	2	3	特学	計
輪島中	生徒数	63	76	83	9	231
	学級数	2	2	3	2	9
東陽中	生徒数	6	1	2		9
	学級数	1		1		2
門前中	生徒数	9	13	7		29
	学級数	1	1	1		3
生徒数計		78	90	92	9	269

6 再編を計画するにあたっての留意点

- (1) 学校の再編に関しては、児童生徒の学習の場として望ましい環境を整備するという視点から、「輪島市が目指す学校の適正規模・適正配置について」を基に本市の学校再編を考え、児童生徒・保護者や地域住民の期待に応える学校づくりを目指す必要があります。
- (2) 再編によって、児童生徒の通学区域が広がるため、区域内の交通事情を考慮のうえ、通学距離、通学時間の児童生徒の心身に与える影響、児童生徒の安全及び学校教育活動への影響に配慮する必要があります。

7 学校再編を行うにあたって配慮すること

学校の再編は、本市の児童生徒にとってより良い教育環境を整備し提供することを目的としており、そのために、再編に対する様々な課題や不安に配慮し、保護者や地域住民の理解や協力を得て行うよう努めなければなりません。

① 児童生徒の新たな環境の変化に対する不安への対応

- (1) 心身の面での支援について、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の相談体制をより充実させ、活用しやすくする必要があります。
- (2) 保護者の新たな教育環境に対する理解が、児童生徒にとって重要なことから、相互のPTAの話し合いや交流活動を推進する必要があります。
- (3) 障がいのある児童生徒については、支援計画などの引継ぎを確実に行之、事前に学校訪問をするなどして、円滑に適応できるようにする必要があります。

② 目が行き届かなくなる、細やかな指導ができなくなるなどの不安への対応

教員だけではなく、配置されている特別支援教育支援員等により、多くの教職員が一人一人に関わる事ができるようにする必要があります。

③ 再編によって、活躍できる場や時間が減少することに対する不安への対応

全体の行事の中で全員が役割を担えるよう、学校の中でもこれまで以上に細心の配慮をする必要があります。

④ 通学の負担増に対する不安への対応

- (1) スクールバスや保護者による送迎で対応し、児童生徒にとって適正な通学時間

となるよう配慮する必要があります。

(2) 通学路の安全確保のための施設・設備面の整備や見守り活動の充実に努める必要があります。

(3) スクールバス利用による体力低下等に考慮し、体力づくり活動や外遊びを充実させる必要があります。

⑤ 地域に学校がなくなるという不安への対応

(1) 公民館と学校が連携し、地域との協働活動が充実するよう機能強化に努める必要があります。

(2) 地域が積極的に学校とつながろうとする意識の醸成を図るよう努める必要があります。

(3) 郷土を愛する心を育むために、これまで以上に、広くなった校区をフィールドにした教育活動や地域人材の活用等に努める必要があります。加えて、地域の特色を生かした活動を、地域と学校が一緒になって取り組むよう努力する必要があります。

⑥ 施設・設備の充実

学校再編は減少する児童生徒の教育環境の充実を図るため行うものであり、学校の施設設備については、再編して、よりよかったと思えるものとなるよう充実に努める必要があります。

⑦再編による学校施設等の活用

地震による被害が大きく、危険で継続使用が困難な施設については速やかに解体することとし、再編により学校施設として使用しなくなる施設等については、安全性を確認し活用を検討します。また、まちづくりや地域づくりの観点からも、復興計画に基づき会議等で審議し、適切に有効活用するよう努めてまいります。

参 考 資 料

輪島市管内図

学校配置図

令和6年5月1日現在



凡 例	
記号	名 称
	一般道
	主要地方道
	一般県道
	計画道
	主要市道
	主要農道
	河
	漁港区
	海岸保全
	国定公

平成 17 年度以降の学校再編・統廃合の事例（小学校）

学校名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
河井小																				
鳳至小																				
西保小																				
鵜巣小																				
大屋小																				
二俣小																				
河原田小																				
三井小																				
町野小																				
南志見小																				
門前東小																				
櫛比小																				
七浦小																				
本郷小																				
門前西小																				
松風台小																				
仁岸小																				

※西保小が通学区域の場合、鳳至小のほか、河井小に通学可
南志見小が通学区域の場合、町野小のほか、河井小、鳳至小、鵜巣小に通学可

平成 17 年度以降の学校再編・統廃合の事例（中学校）

学校名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
輪島中																				
松陵中																				
上野台中																				
西保中																				
三井中																				
東陽中																				
南志見中																				
町野中																				
門前中																				

※西保中が通学区域の場合、上野台中（輪島中）のほか、門前中に通学可

南志見中が通学区域の場合、東陽中のほか、輪島中に通学可

平成27年度以降の児童生徒数推移

【小学校】

学 校 名	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6. 5. 1	R7. 2. 1
河 井 小	245	232	236	246	271	277	283	303	311	147	185
鳳 至 小	311	303	281	242	218	202	181	165	161	109	134
鵜 巢 小	23	20	18	27	24	20	17	9	10	7	7
大 屋 小	152	146	131	118	108	105	90	89	80	59	66
河 原 田 小	37	45	45	45	41	35	27	20	18	8	8
三 井 小	25	21	22	22	21	18	17	13	10	7	7
南 志 見 小	22	18	16	16	—	—	—	—	—	—	—
町 野 小	54	42	38	38	40	43	45	43	43	16	19
門 前 東 小	76	77	73	72	72	61	54	43	37	28	29
門 前 西 小	42	37	34	37	33	33	34	32	31	22	27
小 学 校 計	987	941	894	863	828	794	748	717	701	403	482

【中学校】

学 校 名	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6. 5. 1	R7. 2. 1
輪 島 中	440	439	407	402	397	383	373	348	329	237	249
東 陽 中	78	70	60	44	35	27	27	21	19	9	10
門 前 中	87	77	74	61	52	56	55	63	54	40	42
中 学 校 計	605	586	541	507	484	466	455	432	402	286	301

総計	1, 592	1, 527	1, 435	1, 370	1, 312	1, 260	1, 203	1, 149	1, 103	689	783
----	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-----	-----

令和6年度市内小中学校の学級編成（令和7年2月1日現在）

学校名	学年	1	2	3	4	5	6	特学	計
河井小	児童数	30	28	34	32	23	32	6	185
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
大屋小	児童数	9	6	14	9	14	11	3	66
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	7
2校計	児童数	39	34	48	41	37	43	9	251
	学級数	2	2	2	2	2	2	2	2
鳳至小	児童数	24	19	18	20	24	25	4	134
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
鵜巣小	児童数	1	3				2	1	7
	学級数	1					1	1	3
河原田小	児童数	2	1		1	2	1	1	8
	学級数	1			1		1	1	4
三井小	児童数	3		1		2	1		7
	学級数	1				1			2
4校計	児童数	30	23	19	21	28	29	6	156
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	2
6校合計した場合	児童数	69	57	67	62	65	72	15	407
	学級数	3	3	3	3	3	3	4	22
町野小	児童数	2	5	2	3	5	1	1	19
	学級数	1	1	1	1	1		1	6
門前東小	児童数	3	3	4	5	5	8	1	29
	学級数	1		1		1		1	4
門前西小	児童数	2	3	5	6	4	5	2	27
	学級数	1		1		1		2	5
2校合計した場合	児童数	5	6	9	11	9	13	3	56
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
児童数計		76	68	78	76	79	86	19	482

学校名	学年	1	2	3	特学	計
輪島中	生徒数	83	76	86	4	249
	学級数	3	2	3	2	10
東陽中	生徒数	2	5	3		10
	学級数	1	1	1		3
門前中	生徒数	7	13	22		42
	学級数	1	1	1		3
生徒数計		92	94	111	4	301

令和7年度市内小中学校の学級編成見込み

学校名	学年	1	2	3	4	5	6	特学	計
河井小	児童数	33	31	29	37	33	23	5	191
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
大屋小	児童数	13	9	6	13	9	14	7	71
	学級数	1	1		1	1	1	2	7
2校計	児童数	46	40	35	50	42	37	12	262
	学級数	2	2	1	2	2	2	3	15
鳳至小	児童数	12	23	18	18	20	22	3	116
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
鵜巣小	児童数		1	2		1			4
	学級数		1			1			2
河原田小	児童数	1	2	1		1	2	1	8
	学級数	1		1	1		1	1	4
三井小	児童数	1	3		1		2	1	8
	学級数	1			1	1		1	3
4校計	児童数	14	29	21	19	22	26	5	136
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	7
6校合計した場合	児童数	60	69	56	69	64	63	17	398
	学級数	3	3	2	3	3	3	5	22
町野小	児童数	3	2	5	2	3	6	1	22
	学級数	1		1		1		1	4
門前東小	児童数	1	3	3	4	5	5	1	22
	学級数	1		1		1		1	4
門前西小	児童数	2	2	3	5	6	4	3	25
	学級数	1		1		1		2	5
2校合計した場合	児童数	3	5	6	9	11	9	4	47
	学級数	1		1		1	1	2	6
児童数計		66	76	67	80	78	78	22	467

学校名	学年	1	2	3	特学	計
輪島中	生徒数	76	83	76	6	241
	学級数	2	3	2	2	9
東陽中	生徒数	1	2	5		8
	学級数	1		1		2
門前中	生徒数	13	7	13		33
	学級数	1	1	1		3
生徒数計		90	92	94	6	282

令和8年度以降の新入学児童数見込み

	R8	R9	R10	R11	R12
河井小	19	22	19	18	19
鳳至小	17	18	18	13	16
鵜巢小	2	2	2	3	3
大屋小	9	10	6	12	9
河原田小	7	6	10	5	6
三井小	2	1	1	1	1
町野小	1	2	2	5	3
門前東小	7	4	5	2	0
門前西小	8	4	3	3	2
小学校計	72	69	66	62	59